

令和3年度第1回 南丹市地域創生会議 議事録

■日 時：令和3年6月29日（火）午前9時30分～12時15分

■場 所：南丹市役所1号庁舎3F 防災会議室

■出席者

委 員：窪田委員、坂本委員、高御堂委員、田中委員、谷口委員、中越委員、藤村委員
（欠席：今井委員、野々口委員、俣野委員）

事務局：市長公室 船越公室長

市長公室企画財政課 國府課長、片山企画係長、富部企画係主査

■傍 聴：3名

1. 開会（事務局）

■委員交代について報告

【金融分野枠】旧：蒲生委員 → 新：田中委員

【行政分野枠】旧：南本委員 → 新：中越委員

■欠席委員の報告および会議成立確認（設置条例による）

座長（挨拶）：

新任委員の方はどうぞよろしくお願ひ申し上げます。少し間が空いたが、皆様お元気そうで。忙しくされていることと思う。こういう状況の中でも元気にお集まりいただけて嬉しい。

昨年はコロナの中であったが、新しい総合戦略が動き出す中、皆様から非常に活発にご意見をいただき第2期の戦略ができた。評価についても少し新しいやり方を取り入れて実質的にしていくというこゝとで動き出せた。

私は YouTuber 講座を宣伝させてもらったりして、ある程度の手応えでやらせていただいた。来てもらった5人の高校生達は大活躍してくれた。というように、各々できることをやって地域創生を盛り上げていこうということで動いていると思う。中越委員の前任の南本委員も熱心活発に発言いただき、YouTuber 講座を受けて、管内の南丹市外の人も含めて、高校を回ってインスタグラムで、高校生目線で見聞を発掘するような活動をするという話を教えていただいた。ワクチン接種も進んできたら、恐らく安全に前と同じという感じではないと思うが、活動の自由度も増してくると思うので、各々のやり方でこの地域創生を盛り上げていただけたらと思う。

根本的なところでは私達は行政の戦略を中心に考えているが、地域に住んでいるか関わりを持っている人達が地域特性を掘り起こすか創り出すか。地域にあるものを掘り起こして、内部で楽しめるとか、外部に輸出できるとか、外部から来てもらえる観光として惹きつけられるものを作り出していく。それを銀行にも柔軟な発想で応援いただく。空振りにならないようにしないといけないが、そういうことな

んだらうかと、改めて思っているところ。その成果もあるといえはあるし、なかなか即効性のある成果はないだらうが、地域を掘り起こしてやっていくということ。無理し過ぎずに関係者一同、楽しめる範囲でやるのがいいのかなと思ったりもしているところ。そういったことを、この戦略が大枠を決めて、必要な、市役所じゃないと打てないような手を打っているのか、ということを変更してチェックするというものをしていきたい。ということで、昨年やった取り組みを評価し、ご提言をいただくことになる。

もう一言だけ言うと、コロナだったのでそれをどう見るのか。ちなみに2008年の頃は良いことも悪いことも全部リーマンショックのせいになされていた。リーマンショックのせいで観光客が激減したという自治体もあれば、増えたという自治体もあって、どっちなのかと。とりあえず言えば済むのか、みたいなのがあった。改めて今日の議題の中でも出てくるが、第一印象としては、初期状態とそんなに変わっていない。立ち上げ時期だからそんなに変わっていないのか、3年目、4年目で大きく伸びていくのか、あるいはコロナだからこんなもので終わったのか。あるいはコロナなのにこんなに頑張ったのか、というあたりが分からない。大学の科学者はお金と時間をくれたら調べてみせるというが、お金も時間もいから調べられないので、その代わり、各委員の専門でご存知のこと、お仕事でご存知のこと、生活者としてご存知のことを集めながら、行政だけで考えているよりは良いだらうから、コロナの影響下において狙い通りの結果を出しつつあるのか、あるいは狙いが間違っていたのか、少し修正したら羽ばたいていくような事業なのか、そのあたりを評価してアイデアもいただきたいというようなことをこの2回、今回と8月前半に、お忙しい中連続で申し訳ないが、力を借りて検証したりアイデアをいただきたい。今年も活発にぜひ皆様のご意見をいただきながらやっていけたらと思う。どうぞよろしくお願いいたします。

では、今年度の進め方について改めて正式に事務局から説明いただきたい。

■今年度のスケジュールについて事務局から説明

・近年の評価対象事業数増加を踏まえ、今年度も2回完結スタイルで開催

【第1回】交付金対象事業の概要説明、次回ヒアリング対象事業選定、評価確定に向けた評価シート作成についてのお願い

【第2回】担当部署ヒアリング、交付金対象事業評価確定

座長:

承知した。今から本格的に議事に入りたいが、今回の戦略においてKGIやKPIというものを設定して全体が狙いどおりになっているのかをモニタリングすることになる。KGIとKPIを分けて整理したので第1期よりも上手く捉えられるんじゃないかと期待される。前回も特に悪かったわけではなく、色んな自治体と比べても特に劣っていたということはない。ただ、何でも「観光入込客数」で見えていたり、「誘致企業数」でありとあらゆる事業を評価するような形になっていた。第2期ではもう少し詳細化した。とはいえこのKGIとKPI、資料1でまとめられているが、これだけで評価は難しいので、国からお金をもらっている交付金事業については1事業ずつ別途、独自の様式(様式2)でこの調書を作っていて、どういう事業なのか、どういう制度なのかということをもとめてもらっている。これについて今日説明をいただく。ご質問や「データなし」となっている部分への指摘などあると思うので、事務局から説明があったように、この中で特にヒアリングという形で次回、担当にこの場に来ていただいて、詳しく質問するものを選定していくことになる。

他方で次回はもう1つ、この各交付金事業について国に私たちの会議として評価結果を出すということで、その準備作業として各委員が各個別事業について所定の様式で評価をもらうということになる。昨年やっていた5段階のものと基本一緒。個別事業について有効性の有無の話をしていくとい

うこと。田中委員、中越委員には今回からお世話になるが、以前の有様から改善された。常に市でも改善してやっていたのはこの調書の中身、書き方とか様式が変わってきているということと、以前はKGIはなくKPIに統一されていたうえ、会議には数字が間に合わないというのがやたらとあって、それでどうやって評価をするのかという話をしていた。この各事業について1回の説明で評価を書いて取りまとめているのでは実情が分からないので、ヒアリングしたいという話をした。

最後にもう1つ、この事業を作り終わってから評価しろと言われているが、できれば作る前に意見を言わせて欲しい、ということを行ったので、この2回開催するスタイルとなった。

では、次に議論をしていただく前に、参考資料を使って事務局からご説明いただけることがあるということなので、願います。

2. 報告

■「参考資料：令和2年国勢調査に係る南丹市の状況について」について事務局から説明

・令和3年6月25日に総務省から令和2年国勢調査の人口速報集計結果が公表されたことを受け、南丹市人口ビジョン等の関連情報として南丹市の状況を説明

・南丹市の人口ビジョンにおける令和2年目標人口(31,804人)に154人届かず

・社人研による令和2年のすう勢人口(31,058人)に対しては592人の増

・直近50年間で人口7,668人の減、逆に世帯数3,673世帯の増

・近隣市町の中では、平成27年度調査に比して人口の減少数・減少率共若干改善されている

など

委員：

この状況も踏まえて議事を進めていければと思う。一定の傾向もあるように思う。

委員：

人口増減で自然増減と社会増減があると思う。自然増減はいかんとしがないところがあるが、社会増減の分析はされているか。

事務局：

速報では人口減の状況が不明のため、分析はできていない。情報が出た時点で分析をしたいと考えている。

委員：

京都府の方も同じような状況か。

委員：

リサーチしていなかったの思い付きで質問した。把握できていればよかったが。綾部市のように一時期社会増になっていた時期もあったので。ある意味そこが色々な施策で頑張れる部分のバロメーターになるのでは。どうしても自然減の部分はいかんとしがないところはあるが、自然増も目指しつつ、そのあたりの分析もまた聞かせていただきたい。

委員：

南部の一部でも、住宅地を作っているようなところに少しずつ出てきている人がいるのかなど。大阪等への通勤も見据えてなのか、長岡京市や向日市など。本市も交通の改善で一定この程度の減少になっているのか。しかしコロナ禍で電車に乗るのはまだ怖いとか、色々思い起こされる所。当然、市内の中でもどこで増えている、減っている、という状況は掴めそうである。引き続き、また情報が入れば提供いただきたい。

3. 議事

■「資料1：第2期南丹市地域創生戦略・関連事業に係るKGI・KPI推移」について事務局から説明

- ・令和2年度1年間で各指標がどのように推移したかを表にしたもの
- ・「観光入込客数」のように人を呼ぶ・集めるタイプの指標はコロナ禍の影響で下振れ
- ・逆に「サテライトオフィス相談数」や「移住相談件数」のように順調に伸びた指標も

■「資料2：令和2年度地方創生交付金事業評価調書」について事務局から説明

- ・事業数は過去最大の40事業(ただし予算費目が分かっているだけの関連事業も含まれる)
- ・第2期戦略初年度事業評価に際し、調書の内容を大幅見直しし、各設定指標を参考にしながらも、戦略の基本目標や施策自体にどう繋がるのかを示す形式へ

■質疑応答・意見交換

委員：

これらについての質疑応答、ということで状況を把握していただくということである。まず、交付金をもらっている事業については、個別の事業ごとに評価を出すということ。その上でどういう中身なのかということと、成果上がったのかということを見ていただく上で質問していただきたい。また、これらの中からいくつかヒアリング対象の事業を選んでいくということになる。1事業にどれくらいの時間をかけるかにもよる。事務局も昨年の経験ぐらいしかないと思うが、いくつぐらいの想定か。

事務局：

昨年度は、地域振興課の定住関係、事業所関係の商工課、イベント関係の観光交流室と市民協働室が同席、という3パート形式で実施した。なので、複数部署合わせてヒアリングいただくというやり方もある。

委員：

来ていただいた部署によってはメインの事業について聞きつつ、他の事業についても聞けることが期待できると。部署単位で考えるか、2～3事業ぐらいを最後に決めていくということになる。

< ここで5分間休憩 >

委員：

では、ある程度区切りながら進めていく。資料1と参考資料に関しても何か質問、お気付きの点などあれば。私もずっと聞いていたので、色塗ってみたりとかしてみましたが大したことは分からなかった。分かったことといえば、旧丹後の国にあたるようなところと山城南部の人口が凄く減っていること。木津川市、京田辺市や乙訓の3市町が増えているので、大阪などの繋がりがあるところは増えるのかと思っただけ。近隣では京丹波町が10.7%減なので、南丹市への流れがあるのかなのか。京丹波町から出てきて南丹市に家を建てて、そこから大阪府や京都市内に通うという人がいるのか、いないのか、関係ないのか。なかなか突き詰めていったら分からないことばかりなのだが、皆さんそれぞれが持ち寄っている情報で言っていたきつつ、検討を進めていきたい。

まず、人口のことや、KGI・KPIの推移で何かご質問とか教えていただけることがあればお願いしたい。その後、1個ずつの事業をある程度関係性で区切りながら進めていく。

では、KGI・KPIの関係でどうか。

委員：

定住関係、コロナ禍で想定目標値を上回る相談件数だったり、空き家活用というのが上がってきているということ。聞いていた話でも非常にコロナ禍で緊急移住宣言ではないが、まさにこのエリアを全国的に多くの方が求められて、定住以外でも、半分居住的なものなど色んな形も含めて非常にニーズが高まってきていると感じる。

1点、空き家も実際に使えるところがだんだん足りなくなっているという話も聞く。ある地域では地域をあげて、できるだけ子どものいる世帯を呼びたいと頑張っておられて、色んな空き家の整理も含めて一緒に地域でご尽力されていると聞く。南丹市全体としてある意味、移住のモチ期ではあるが、その辺を今年度どのようにされていくのか。この創生交付金事業だけではなく、全体的な話として。先ほど座長が仰ったが、地域によって状況も違うのでそこも含めて。また移住関係の事業でまた議論してもらったらよいが、色々な新しい事業、事業の継承なども含めて現状の評価・把握は。

委員：

南丹市の中でも、八木、園部と美山では温度差がものすごくあると思う。

私は美山に住んでいるが、本当に空き家が多い。

空き家があって「美山は空気が良いから住みたい」という方でも、畑や田んぼ、山があると「それだったらやめておこう」という方が多いそうです。

私の住んでいる下平屋では戸数45軒あるが子供が小学生1人、中学生1人、犬13匹、空き家13軒それが下平屋の現状である。

水は芦生の源流できれいだし、空気はきれいだ、生活している者にしたなら何かにつけてすごく厳しい状況である。若い人がもう少し移住してきてほしいと思う。

委員：

空き家と畑が分けられるとか、もう少し流動的にできたらよいのに、と思う。

委員：

京都府でも集落営農とか集団営農計画とかやっていると思う。それで田んぼと切り離せるといえば切り離せる。一方で空き家調査もかけている。実感として集団営農は進んでいるのか。

委員：

現在美山は少子高齢化進み、小学校全校生徒131名、(山村留学生7名含む)中学校全校生徒55名で一昨年は3年生が10名だけであった。厳しい状況である。

委員：

とにかく住むところがないと来ない。理屈上は集団営農で切り離して住めるはずだが。そうでなければ山を削って家を作らないといけないような話になる。

委員：

美山町はそういう状況。

委員：

委員の見聞された範囲だと、なかなか田んぼや畑と切り離して家を貸すという話にはならないので、やはり掘り起こしも難しいと。

委員：

そうである。私も一時、美山に住んでいたので状況もなんとなく分かる。

コロナ禍で都市部に住んでいる友人が「子連れで遊びに行くところも気を遣うし、南丹市だったら居るだけでディスタンスやしいいな」と実際に聞いた話をポスターのデザインに盛り込んだ。

移住しようとなると、やはり住んだら迷惑をかけるわけにはいかないから、畑とか田んぼも付いているならちゃんとやらないといけないし、その責任を負うとなると、やはり重たいと思うのは当然。もし制度等で何か分ける仕組みがあって解決できることがあるならよいと思うが。

委員：

そう思う。交付金事業の後の方に出てくる「集落の教科書」とかは、その畑・田んぼ付きの暮らしにスムーズに入っていけるようにするための教科書を作るという取組。今は「切り離せたら」という話をしている。集落の教科書云々とか出ていたのはその話。南丹市が初の取り組みとして発信しているもので、各集落ごとに様々ある風習とか山の権利関係とかやってもらわないといけないことを、分かりやすく書いた冊子として地元と協力して作って、来ようとする人に見せる取組。

委員：

理解してから来てもらった方がよい。

委員：

ただ、理解しても田んぼと畑が付いてくることは変わらない。なかなかお墓に入れてもらえないのも変わらないかも知れないが。その辺の事情をつまびらかに書いている集落の教科書みたいな取組もあっていいな、という話にはなっている。

委員：

やはり切り離さないとなかなか。住むということイコール生活と働く場所のセットになると思うので。そ

の中で田んぼと畑というものが生活の糧にはなかなかなりにくいということだと思う。そこでもし、しっかりと収入が得られるようであれば職場として考える人も出てくるような気がする。

委員：

しかし地元の人でも高齢化になり田畑は休耕ばかりである。
これからの農業は大変厳しい状況だと思う。

委員：

では、切り離して考えた方が？

委員：

農業をやりたいという人にとっては1カ所だけというより、近くで効率的にやれたほうが良い場合もあると思う。私も1カ所借りているが、田んぼだったのでぐしょぐしょになっている。地質との相性もあるのだろうと思う。

委員：

この文脈で何かといっても言いにくいかも知れませんが、切り離してと確かに国とか府としては空き家の活用と集団営農みたいなのをしようという流れで頑張っているところですけども。実態に合っているのか合っていないのか、どうすればもっと加速化するのかとか、実情とかなにかそういったことで教えていただけることがあれば。

委員：

田んぼと畑が付いている住宅がこんなに評価が低いのが辛い。

委員：

どっちかという評価高いかなと思っていた、こういうご時世なので。

委員：

結構人を選ぶという感じなのだろう。家族の中で誰かが良くて残りが駄目だと。田畑と切り離されていたら一家で引っ越してこれるのが、全部付いているとお父さんだけやる気で…というパターン。「行きたかったら1人で行けばよい」のような話になりがち。

委員：

勿論、付いている家がよい人もいるが。

委員：

家だけ買っても周囲が荒れていたら、その農村の風景が全く楽しめない。逆にそれ付きで家进行评估しないと。家だけが欲しいと入ってきた時に集落はかなり困ると思う。周辺の作業など必ず付いて回るので。その評価が低い、それで流動化が進まない、となると考え方を変えないといけないのかも知れないが。ただ、周辺の農地も管理できない人が入ってきても、集落としても「じゃあ何のために農村に来ているの？」と言いたくなる。

委員：

そうそう、そこが問題である。

委員：

やはり田舎の暮らし全体を良しとする人に入ってきていただくほうがよい。

委員：

そうしないと家も維持管理できないだろうし、家の周りも維持管理できないし、その集落も維持管理できない、ということに繋がっていくので。今、聞かせてもらったような実状があるなら農地と家を分離して家だけで貸しますと言いたいが、実際には厳しい。

委員：

厳しいと思う。

委員：

府の取組が上手くいっていないかどうかは分からないが、つい最近も大学の授業で来てもらって教えてもらったのが、この「集落連携100ヘクタール農場づくり事業」という取組が今現在進行中であると。多分その家の周りの管理は従来どおりのイメージでやるだろうが、その田畑部分は貸し出して集団営農してしまうコンセプトであるらしい。それを粘り強く説得しながら応じてくれる田畑を増やしているのだ、という話。学生達の評価は高かったが、私はそんな遅遅たる歩みでは遅すぎるんじゃないかと言って嫌がられた。今までどおりワンセットで入ってきてくれる人も頑張って呼び集めながら、他方で集団営農も進めてある程度切り離そうみたいなこともしているという話。

委員：

美山町や日吉町では集団営農自体が成り立たないから難しい。この集落の教科書、「東胡麻」は地元なのだが、よく出来ていると思った。こういう教科書的なものを一つ一つ丁寧に何か所作っていくことが、実地的な地域おこしに繋がっていくと思う。そうでなければ、単純に家だけが欲しい、次に家を買っても隣が荒れていたら「これ誰の土地なん？整備してよ」と言うだけの人が来てもらっても地域は保たない。無駄な動きに見えがちな環境整備的取組に集落の人がかなりのエネルギーを注いでいるからこの環境が維持できている部分が大きいと思う。そこを理解していない人に入ってきてもらうということは、逆に地域を潰してしまうことになるので。空き家を解消できたらよい、という問題ではなくなっていくという視点をきっちり持っていないと危ないと思う。

委員：

一方で集落の維持、他方で農業の維持、手放したい人の分も束ねて大規模化みたいなことを公営でやっていて。今の文脈であまり出てこなかったが、山林も同じように境界が曖昧なのを何とか維持していくことをやっています。

そろそろ事務局にも尋ねようと思うが、前に話題になった平成台、土地は全部売れたのか。住宅地を整備したり、新光悦の辺りの住宅地も人気でわりと売れているという状況。全く新しい住宅地を作ってそこで旧来の集落とは違う市街地を作って住みたいという人を吸収するという手もあるわけで。そ

ういうことを色々やってきたんだと思うが、この全体像を現状どのように認識しているのかを知りたい、というのがそもそも委員のご質問なので事務局に聞きたい。委員間でかなり情報も出してもらって有意義だっと思うが。

事務局：

園部町の平成台の土地は市でも係わって完売した。光悦村の近く、内林町のあたりもかなり人が多くなってきた。そこに新たに人口を増やしていけるような状況ではないということまで達しているので、そこは上手く進んでいると思う。

次は新たに、農村に住みたいという方だけではなく都市部への通勤も含めて市街地を考えていただいている方には、八木駅西側で区画整備事業を進めている。皆様から見られたら進んでいないと思われるかもしれないが、順次進めている状況。

農村部でのお住まいということならば、農地とセットを希望される方もあるし、そうでないことを希望される方もある。希望されない方については、南丹市の中心地などにお住まいいただき、希望される方も多と思うが、水田においては非常に大規模な圃場整備などで広い水田もあるので、大型機械がないとなかなか維持管理、運営、営農ができない状況。そういうところについては、集落営農や、地域の中心的な方に基幹作業を任せながら、という方が多いと思う。ただ、隣接する畑とか小規模なものについては、それを楽しみに移住を希望される方がいる。自然豊富な中で家庭菜園の大きなものをやりながらという生活を希望される方もいる。そのあたりが十人十色、色々な希望がある。

それを空き家マッチングにおいて、十人あれば十人用の用意をしていかないと上手くできないと思う。それが空き家バンクでは順番によい物件から入居いただくので、残っている中で掘り起こしを進めていかなければならないという事情もある。

繰り返しになるが、南丹市内中心的な市街地でのお住まいを希望される場合は上手く受け入れていきたいという思いはあるが、平成台と内林町が順調に埋まり、次の八木西地区が準備段階なので、今すぐ受け入れられる状況ではない。

委員：

今の話は大変参考になった。他自治体の創生会議に行っても、どちらかと言うと上手くいかなかったところの方が多い。木津川市はオシャレな家があって負けてしまう、とか。城陽市に行ったら、すぐ木津川市に全部やられているという話を聞く。城陽市は家が建て直せなくて路地が狭いから無理だとか、宇治田原町も山に登らないといけない分不利だとか、言い訳が色々出てくる。ただ、とりえず綺麗な今時の人が選ぶような家があるところは選ばれるんだ、という話になっていた。

もし機会があれば銀行のネットワークの中で、人口が集まっているところは本当にそうなのか聞いていただけたら。南丹も中期的な目で見たら、また住宅開発できるところはしていったら増えてくるだろうと思うので。そういう「選ばれる住宅街」があるんじゃないかという説が京都南部では囁かれている。よく家族の中で、結局は女性が選んで競り負けてしまうんだという説明を城陽市や久御山町ではよく聞く。久御山町も農地が多くてなかなか魅力的な住宅街がつかれないから負けるんだ、みたいなことを通説で言われている。「そうなのかも知れない」という話で終わっている。南丹市では新たに来られた方にこの地域で歴史とか文化を知っていただくとか、余暇で地域を盛り上げることに参加してもらえたら、というのが地域創生の話の流れの1つになっている。住宅はよいとして、もう少し農村の方の維持は頑張っってやってくという理解でよいか。新市街地開発よりは農村方面の施策として市の概況、理解はどうなっているか、という話の出発点的であったとは思いますが。

事務局：

定住の考え方は2つあると思う。住宅地を求める人が移住してくるという考え方と、実は農業がしたくて農地を取得したい、就業したいという人、それを求めて南丹市に来られる方の2通り。住宅を求めている方に、今おっしゃっていた城陽市、久御山町の住宅を提供、というのはなかなか難しい。実は農業がしたい、という方が住んでいただくのが、南丹市としても一番、定住促進のマッチングができると思っている。その為には、就農促進をするサポートセンターや農地バンクの機能をつくったり、新規就農者支援などの対策を打っていかないと、なかなか職業として農業するということと、移住していただくところが難しいという課題は、南丹市として感じている。当然、収入のあてがないとなかなか移住してもらえないので、特産物の流通・販売の仕組みなども並行してやっていかなければならない。

委員：

この話題も尽きないところだが、他の点も含めて見ていきたい。転入に関する数字は比較的移住の相談も伸びていてよい感じはする。一方、KGIで見ると婚姻出産などは悪い。普通に考えてコロナで医療が逼迫してリスクがある中で妊娠したら体も弱くなるし、その時に病院にも行きにくいと思うと減るだろうなという予想は普通につく。コロナの状況が改善すれば普通に期待できるかなと思いつつ私は見ていた。その他指標で確かめておきたいことがあれば。市民の地域活動参加率なども減っているが、これもコロナなのかなと。全然伸びてない悪いじゃないかという指標で、聞いておきたいものがあれば。

委員：

観光に関して最近聞く話で、海の京都 DMO エリアの価値が上がってきていて、これからインバウンドが復活した時には、京都市内よりもそのエリアに人が流れるんじゃないかと。

そういう時に、森の京都 DMO として、南丹地域にどのように、特にいわゆる富裕層の人達呼ぶのか呼べないのか、来たらどこに行くのか、そんな戦略みたいなものがあればお伺いしたい。

委員：

森の京都 DMO で言うと、インバウンド数もコロナ前までかなり数としても伸びてきた。質的にもこのエリアに合った方が増えてきている。国籍でいうと台湾が多い。このエリアの農村を求めて来られるのは台湾香港系、香港は今大変なことになっているが、そのあたりの方々。中国でも割と価値を認めていただける方がいて、かなり来ていただいていたと思う。

エリア全体としてはトロッコ列車に乗って入口で帰ってしまうという課題があったので、もっとエリア全体の魅力を高めるために発信していた。暮らし、文化、食であったり体験であったり。亀岡の刀工の体験はフル稼働するくらいの人気があった。工房を巡るようなサイクリングもインバウンドの方々のニーズが大きかったので、そういった価値を分かっておられる方を受け入れる地域にとってもよいことじゃないか、ということで地道に取り組んだ。

超富裕層というのはなかなか厳しくて、「余裕層」という言い方をしていたが、暮らしに少し余裕がある、その方々が層としてもかなり厚いが、どうしても宿泊を伴わずにちょっと来て体験してそのまま帰ってしまうとか、あるいはそのまま通過して海に行ってしまうという流れが多かったので、いかにしてこのエリアに泊まってもらえるか。最近、一棟貸しや魅力的な宿泊資源なども色々できてきているので、滞留時間を延ばす、できれば泊まっていたいただきたい。移動自体も楽しんでもらおうということで、サイクリ

ングための仕掛けもやりかけている。これはコロナが明けても、日本人も結構こういうニーズがある。そういうことでもう1回、地域の強みを活かして今の間にしっかり受け入れ体制をつくる。トップガイドで本来なら全国中を飛び回っているような人がこのエリアに住んでおられて、色々とコンテンツ開発のアドバイスももらって情報交換している。基本として暮らし文化のようなものがここの宝なので、それをいかに味わってもらえるか。なかなか地味で見えにくいところではあるが、いずれも「京都」と結びついた所縁があるので。

委員：

この地方創生戦略の文脈では農家民宿、農家カフェとかの創業支援というのを数値目標にあげている、取り組んでいるところだと。先に開業している人が後に開業しようという人をコーチングするという。上手いくのかどうかと私はしつこく追及しているが、そういう事業があったりする。

私1人のアイデアとしては、もっと海外の人とかにも映画で出てくるような日本の農民体験、黒澤映画が今どきどれだけ訴求するのか知らないが、そこに出てくるような農村世界に入り込めるような体験など打ち出せたら、上手いくのではないだろうかと思いつつやっている。一方で真面目に農業をやって、何とか生き残って近代活用されている中で一部区画を借りて江戸の農村にするわけにもいかず、という事業で、難しいなと思いつつやっている。忍者体験が流行って侍体験が流行って、農民体験だって流行るはずだと。真面目に農業やっている人からしたら腹が立つかも知れないと思う一方で、ニーズもあるはずだと。田植えしても喜ぶ人はいる。格好装束から全てやってやればウケるのかなと思いつつ、アイデアもポツポツと出しながら皆で頑張っている。

「森」と名前についているが、農業に結構重点を置いてやっている方か。あととり溪でもグランピングとかでかなり人が来ていたり。色々と10年スパンで見ていると資源が増えていっているのかなと思う。

観光に関しては長らく観光協会が旧町ごとにバラバラやって、統一性がないということも十数年前には言っていて、それが段々と統一行動がとれるようになってきて、そのPRもしようという話になって山陰本線南丹市広告宣伝事業で京都駅とかに映像を出して徐々に知られるようになってきている。今回、首都圏にもそれを出していると。

「森」と言っているが割と農村、原風景、美山に頼る部分も大きいけど、されているところがある。加えて歴史ということか。農業と歴史。

委員：

そういう意味では八木城がキラコンテンツになるというのは凄く面白いと思う。

委員：

そう思う。お城ブームもある。

委員：

国内の人でも面白いと思うし、海外の人にもウケると思う。それが全部、繋がっていけば。美山も八木も繋がっていけば、面白いコンテンツがある地域になると思う。

委員：

このコロナも逆手にとって、「健康になれる地域」みたいな打ち出し方もできるような気がする。身体を動かして農業、季節のものを食べる、のようなこと。歴史も山城が多いので、登ってもリフレッシュで

きるだろうと思う。

委員：

子どもを安全に遊ばせておいて、その間に親が体験などできるようなコンテンツがあれば、と思う。

委員：

京都府の総合計画にエリア構想というのがあり、このエリアについてはスポーツ&ウェルネスということ 키워ドで展開している。丁度最近、プラットフォームが立ち上がってこれからスタートするが、切り口が3つある。

1つはトレーニングセンターとかスタジアムが出来てきた中で、ジュニアアスリートを地域資源を使ってどうやって育てていくか。日吉ダムのダム湖などを活用してボート競技やらしてもらおう。

2つ目は色々な健康・癒し・食などを含めた幅広いウェルネス。明治国際医療大学の東洋医学もあるので、そういう面でも本当に元気になって帰ってもらおう。実際に受け入れている方に聞いても、お客さんが元気になって帰っていただくことが非常にやり甲斐になると。そういう意味での幅広いツーリズム的な形。

3つ目は地域内の方がウェルネスを感じていただけるような仕掛け。色々なウォーキング、日常的なものであっても楽しめるコースである。保健所でも「地域の健康づくり」というキーワードでやっていた。

そういう3つの切り口でこれからプラットフォームを延ばしていくので、ぜひこういう市町の事業、あるいは地域の皆様と一緒にこれから一緒に作っていきたいと思っている。挙げていただいている事業の中でもかなり、連携・位置づけできそうなものも沢山あるので、次回またご提案させていただく。

委員：

ありがとうございます。では引き続いて個別の事業について、勿論一人一人の委員の方から電話でも直接でも聞いていただいたら答えてはくれると思いますが、ここで聞いておいていただいたほうがいいかなと思います。そもそもどういった事業なのか、この部分のことを知りたいなどあれば時間の許すかぎり聞いていただけたらということです。

委員：

事業評価調書にはなかったが、資料1の指標にあったので、ふるさと納税について。ふるさと納税、私も参入しているが、1人で幾つも申し込まれる方もおられるし、件数も増えていて、よいコンテンツだと思う。同じくふるさと納税に参入している方に聞くと、ただのお買い物サイトみたいになっていると感じていて、私はこういう場も知っているから、南丹ファンのようなPR資料と一緒に入れて送るようにしている。地域創生を知らない事業者さんも多いと思うので、ふるさと納税で注文があったら「これ同封して送ってね」みたいな南丹市のPRチラシセットみたいなものがあつたらよりよいのではないかと、思う。

委員：

確かに評価対象事業にはない。大前提として資料2は国のお金をもらっている事業だけなので、地域創生戦略の実現策でも独自のものはここには出てこないの、今みたいな形で意見をいただければ。

ご意見には全く賛成で。一応私も付き合いのあるまちには全部寄附した。付き合いのないまちだと、白馬村とかはよく行くのと品がよいので寄附する。同封で案内が入っているが、市政だよりがぼろっと

入っているだけではあまりにも寂しい。そのチラシセットで入るとか、あるいはまとめてデジタル的に若者向けの2次元バーコード配布とかしてもらって、色んな情報が見られるということであればもう少し興味も増すだろう。キャラクターやキレイな封筒みたいなものが送られてきたら、こっちの方が頑張っているのかなと感じる。事業者さんの理解を得てやらないといけないだろうから、ご苦労だろうがやり甲斐はあるのかなと。カタログみたいなものが入っていたら、結局買い物だが「他にもこんな魅力的なものがあります」とか「こうやって来てみてね」と訴えてきて「ああええな」と思うのは確か。

では、引き続きこの資料1や、各事業についてのご質問でも。

販路開拓支援ということで1-3についてお尋ねしたい。今時ICTを利用して世界へ繋がるようなものも多いと思うが、やはり見本市というのが重要なのか、ということと、そのICTを使った発信とか、連携みたいなことを応援する枠組みの有無について。

事務局：

コロナ禍なのでオンラインが勿論視野に入ってくると思うが、残念ながら制度上まだ補助対象に含められていない。検討中の段階なので、今の段階では従来の見本市・展示会という形の補助になっている。ただ、担当にも聞いているが、最近は「オンライン見本市」などもあるということで、一部枠に含められる事例もある。これからオンラインに視野を広げて進めていかなければならないという認識はしているところ。

委員：

地域特性の産業化で輸出みたいなことの流れの中で、それを売り出すのにオンラインがもっと活用されたらと思う。今時なので大学・高校との連携みたいなものもあると思うが、大学生とか高校生にPR方法を考えてもらうとか。ありきたりだが、京都府内では京都府や京都市がされている。我が家にも娘が「京式部(きょうしきぶ)」という新種のコシヒカリと何かを混ぜた米を持ち込んできて、これのPRを大学のサークルで売り出し策のアイデア提供をやっているんだと。そういう学生参加PR策。完全に頼ってはいけないと思うが、あってもよいのではないかと。高校生や大学生が地域を知ることにもなる。見本市に取って代われと言っているのではないが、地域特性を発掘して売ると取組では、そんなことも京都府、京都市ではされているという話。

委員：

森の京都 DMO も美山ふるさと(株)も EC サイトをやっているが、コロナ禍で EC サイトの売り上げが伸びている中、十分に伸ばせていないというのが課題。どのように認知度を上げて、購買につながるようアプローチしていけるか。南丹市で新たに EC サイトを立ち上げると大変なので、美山ふるさと(株)も工夫されていると思うが、ターゲット層を考えたい。

琴平バスと連携し、美山 DMO、摩気地域にも協力してもらい、海外向けのオンラインバスツアーを1回だけやった。今後は、国内向けにも実施して、色んな産地を紹介して見てもらいながら購買へつなげていく。手間がかかるのだが、関係づくり、マーケティングをしながら、仕掛けられたらよい。これは市の直営でなくてよいのだが。販路開拓は何が効果的なのか、模索しながら進めていければ。

委員：

WEB サイトの相談は凄く増えている。サイトを作るだけでは注目してもらえないようになってきているので、先ほど言われたようにその作ったものに合わせてどう誘引するのか一緒に考える、みたいなこと

が増えている。そういうのに使える制度設計になったら、助かる人がいると思う。

委員：

1-2の創業セミナーで15名程受けていただいた結果、その後何か芽は出てきているか。すぐには難しいか。状況を知りたい。

事務局：

そのご質問には即答が難しい。

委員：

了解した。まだまだこれからの取組。1-6の小規模起業支援だが、事業継承、場合によっては廃業も含めて今色々課題になってきていると思っている。創業も大事だが、継承すること、今までの地域の中での取引であったり、地域の中での産業の繋がりががあるので、いかに継承するかというのは大きな課題だと思う。この事業で38事業者も参画いただいて。金融機関に色々担当支援していただいていると思うのだが、経営者や状況について分かれば。

委員：

見えている範囲のことではないが、担当しているお客様は比較的、親子で事業をされているケースが多くあるのでスムーズに後継が行われ、テクニカルにはご相談に応じて対応するケースは沢山あるものの、後がしっかりしているケースの方が多い印象。先代、先々代の支店長からずっと引き継いでいるが、八木町のお客様は比較的しっかり、コツコツ事業をやられる方が多い。後任がいないというケースはあまり多くないが何件かあり、従業員に引き継いでいただくのか、あるいは完全に引かれて事業売却されるのかということまで話が進みそうなところ。ただ、見えているのは商工業に限られ、農業は全然見えていないので地域の方の話を伺うと、農業の方は後継者がいらっやらないという話はよく耳にする。

委員：

美山暮らし情報配信システム整備事業というのは、これは66万かかったということで、立ち上げからこんなにかかっているのか、今後もずっとこれぐらいかかっていくのか。

事務局：

継続的にかかるものである。

委員：

立ち上げでもこれぐらい、継続でもこれぐらいかかるということですね。

美山在住の委員はどう思われるか。凄く便利になったとか、実状がどうなっているのかとか。期待が持てるのなら全域的に広がって…となりそうな取組であるが。期待し過ぎてもいけないが、成功すればさらにアプリ開発を進めて、便利なアプリになるとか。プログラミングを身につけた人が新たなアプリを購入してそれで地域が繋がって、便利になって、という発展を期待したいところだが。現状はどうか。

委員：

使っているか。

委員：

使っている。

委員：

この569件の中に委員が含まれているということか。

委員：

入っている。

委員：

元々は携帯に不審者情報が入るなどという類のものか。

委員：

不審者情報も入る。

委員：

これにはその機能はあるが、昔はなかったのか。

委員：

南丹市全体で防災メールはある。

委員：

元々、南丹市全域のメールお知らせサービスみたいなのがあって、それに更に上乗せして美山はスマホで詳しい情報がくる、というものか。

これは美山在住者の一部の人が委託を受けてやっているのか。

委員：

これはテレワーク企業が最初に導入したのか。

委員：

全然わからない。

委員：

振興会がやっている。

委員：

振興会が何か発信してくれている。外部にお金を払っているのだから、振興会だけでなくどこかが。美山アプリで色々な情報がくると。それはいつからか。

委員：

いつからなのか。かなり前からだと思う。

委員：

かなり前からやっていて、昨年度から交付金がもらえるようになったということか。もらえるようになってよかった、で終わる考え方は、毒された考え方。もらえるようになったのだから加速化しないのか、とは思。

委員：

美山町の住人は 3,000 人ぐらいいる。それに対して 5～600 件という登録数は少ない気がする。

委員：

子どもが少ないから大部分がスマホを持っているはずであって、持っているならこれに入れててよさそうなのには思う。

自分達同士、発信できるではないと。情報が送られてくるもの。

委員：

インストールしようとしたが、かなり面倒でやめた。登録がはじかれるのと内容がよく分からない。66 万円が初期と継続的にかかるというのは、何がそんなにかかるのか。

事務局：

これは、毎年のシステム保守経費として継続的にこの金額がかかるもの。

委員：

通常、WEB サイトなどを立ち上げる時は初期経費の方が大きくて、継続経費は大概少ないものなだが、なぜ同額になるのか。

事務局：

今回、初めて交付金の対象経費にしているので新規事業扱いをしているのだが、以前からあった取組を新たに地域創生に位置付けたものであり、この経費がイニシャルコストではない。

委員：

維持に 66 万もかかるのかとは思うが。

委員数人：

そう思う。

委員：

570 人ぐらいしか登録していないのに。少し各委員で考えていただく上で知っておきたいと思お伺いした。

委員：

交付金をもらっているとは思っていなかった。

委員：

もらえるようになったということである。

委員：

住民は皆知らないと思う。

委員：

全体で66万円ということ。そのうち一部を交付金でもらっている。交付金をもらえるようになったのだから、ちょっと付加するとか。何かあってもよさそうな気はするが。今までやってきたことの価値を国が認めてくれてお金を一部もらえるようになった万歳、で終わるよりは、それを機にちょっとリニューアルやパワーアップが欲しいところ。

委員：

交付金の件は皆、知らない。私も今初めて知った。ありがたいことである。

委員：

今年度から国のお金がもらえるようになりました、と配信の最後に必ず1行付くようになるとか、最近ありがちな展開ではある。

委員：

「なんたんガール」という情報サイトを立ち上げているのだが、まだ1ヵ月足らずでSNS登録者数が1,000件超えている。SNSでは流せないことも流してるのだろうと思う。

委員：

実際、避難情報などもくるという話だが、緊急なら相互補完、被っても効果はあると思うが。

委員：

南丹市のメールで届くものは必ず入る。私は南丹市役所メールも登録しているから、同時に入ってくる。

委員：

同時ならどちらかいらぬのでは。

委員：

元々あったサービスに美山町だけ上積みしてみて、それがよかったら全市的に展開して、という流れが考えられたと思うのだが、実際にどうなっているのか。それを担当部署に来てもらって、根掘り葉掘り聞か、頑張っって欲しいというアイデアを書いて終わるか、考え方は両方ある。

あともう1、2だけ聞かせてもらいたい事業がある。小学校跡地の関係が出てきている。数年前に委

託いただいて研究室でほぼ全部の小学校跡地を2日間で巡って跡地利用策を考え、やはり大したこととは思いつかなかったが、色んな跡地があるのだという見聞と理解は深まった機会があった。小学校跡地を、皆様の思いがある中で、地域で使えるのだったら是非使って欲しいということにしたが、それは時限的なものでいつまでもできないかも知れない、と言いながらやっていたということ。そういった文脈の中で、小学校跡施設利活用推進事業とか小学校跡施設管理費というのはどういう位置付けになっているのか。小学校跡地問題がどういう今状況になって、どんな目途がたっていて、この2つの事業がどういう役割を果たしているという理解をすればよいのか。

委員：

丁度私、どこの小学校とは言えないが、ご相談を受けていて、数年後には管理費が無くなるという話を聞いている。その中で次はどういう形でやっていくかというのをしっかり決めなければいけない。それに向けて一緒にやれることはないか、ということでご相談は受けている。なので、皆様は今、将来に向けてどういう利活用をするのかということも、もう既に各々検討され始めている。多分、今のままではいけない、という感覚はお持ちなのだと思う。今は各部屋を比較的安い値段で場所貸しされていて、ただそこに色んな借り方をされる方がいらっしやる。ただの貸し部屋から、教室をやる方もいらっしやるが、原点に戻った時にそこに賑わいが増えているのかというと、そうでもないなという感覚をお持ちになっていると思う。何か次の一手をと考えていらっしやる。

委員：

管理費は全部に一定定額、国の助けを借りて管理費の一部を国が補填してくれているという理解でよいのか。

事務局：

地元のご協力をいただいて活性化センターになっている所についてはそういう形である。当初から10年の間に地元の求められる利活用方法を検討ください、ということで、10年目が近付いている。そういうご相談に行かれていますのだと思う。

場所によって色々あって、例えば福祉系の法人に入っただく話を進めていただいているところもある。全然違う、貸し部屋の運営を発展させて色んな人が出入りをしながら施設をもう少し長い間維持していこうというお考えのところもある。一方では施設が老朽化していて取り壊して欲しいという話も聞かなくはない。全てが同じ方向ではなくて、各々が違う方向を目指されている。まだ決まっていないところもあるので、これから様々な分野の方に相談されてよりよい策を検討され、市も積極的に参画していくところもあると思う。まだ決まっていないところが多い。

委員：

小学校跡施設で全体で11あるうち7つがここで言うところの活性化センター。更に4つのところは地域が独自にまちづくり活動をやるということで跡地利活用推進事業を受けているということ。

受けずに民間とのコラボで何かやられるパターンもあるという理解でよいのか。

事務局：

今日ご紹介した鶴ヶ岡小学校の件とかはそういう形である。

委員：

旧西本梅小学校は昨日、UNIXIA というドローンの会社が動画をアップされていた。コワーキングスペースがあったり、人の交流の場になっているということを動画にされていた。あそこもキーになる人が入っているのでは。

新規事業のアーティスト・イン・レジデンス事業、亀岡では霧の芸術祭という取組に力を入れていて、プラゴミゼロの話をアーティストだったらこうなります、というような結果を出されていたりとか。色々な形でアーティストと行政がやることをアーティストが後押ししたりとかしている。私の感覚で言うと、やっていることがちょっとキレイに見えるとか、かっこいいとか、そういうセンスが出てきているのかなと思う。この事業はそういう発想でこれからもやられるのか。どういう視点でされるのか。

委員：

そもそも5名が滞在とあるが、これはどれくらいの期間滞在されたのか。

委員：

長い人と短い人とがいたはず。

委員：

これは今年度もやっているのか。

事務局：

やっている。

委員：

引き続きやっていると。最長は1年間通じてずっと住みたいになるのか、あるいは最長でも数ヶ月くらいなのか。アーティスト・イン・レジデンス事業についてももう少し詳細が知りたいという声があったということ。さらにアイデアとして委員から言っていたのが、アーティストのデザインを行政に活かすという発想。私の研究室でも、評価にデザインを取り入れることをやっている。TV 番組の世界一受けたい授業でも、行政にデザインを活かす特集をやっていた。そういう流れもあるのでアーティスト・イン・レジデンスで来てくれている方が、協力をしてくれるのならば、公共的なことにアートを活かしてくれるみたいなことをしたらよいのではないかと。

ただ、それを条件に、と言うと狭めすぎている感じがする。そもそもは地方にあまりいないというアーティストそのものが地域に居てくれることに価値がある事業。

委員：

現代アートというのはまちづくりにも入ってくるみたいで。プロセス全体を現代アートというのを先日、勉強した時に聞いて、なるほどと合点がいった。皆が住みたいまちをつくる、という時に、やはりアートの力は大きいと思った。これを発展させてはどうかと。

委員：

昨年の京都:Re-Search の発表の時、滞在した方が窓口の視点で研究したのを発表されていて面白かった。発表があまり周知されていないくて、みんなポツンと待っているみたいな様子だったので、ち

やんと周知ができればよいなと思う。今年は10月だったか映像作家が来ると聞いているので、市民に周知ができるとよいと思う。

委員：

作品があれば、行き交う人に見ていただく機会をつくるなどは、私達の企業努力でできることもあると思うので。周知にも貢献できるかと。

事務局：

先ほど、委員から紹介のあったUNIXIAという会社は、旧五ヶ荘小学校のところで部屋を借りて、ドローンで色んな活動をされている。例えば農薬散布など、今まで人力で非常に苦勞していたことをドローンで省力化の手伝いをされ、そういう時に空撮で園部町や亀岡市など色々撮られたものをPRも兼ねて色々アップして貢献いただいている。今回は旧西本梅小学校を出していただいた。

委員：

では、活発にご議論いただいている間に予定時刻が近付いてきたので、この状況でどうやって次回の話し合いをするのかご心配かと思うが、一応案を示してみようと思うのでご意見を伺いたい。

観光で割と議論はしたが、コロナのステージが変わっていく中で、観光と交流をどうするのかという話は皆様ご関心もあるだろうと思うので、コロナ禍で苦闘した観光と交流の評価を聞くのに観光交流室は候補になるのではないかというのが1点。

もう1点は、どういう切り口にしてよいのか分かりにくいところはありますが、集落関係なのか。「定住」と言うと微妙に文脈が違うので、「集落を維持してもらえるような転入」というようなことかと思う。どの事業になるのかは、事務局でもお考えいただきたい。集落の今後を展望していくようなことに関わる事業、ということになるかと思う。今日、議論していた文脈で言うのなら、田んぼとか付いた家にそのまま入ってきてよいという人を連れてくるような事業であったり、京都府の集団営農事業みたいな取組を進めていくような関係かと思う。集落に住み続けたい人は住み続けていただくようにしながら、新しい力も入れていくような事業。

この2点は確実にと思うが、あともう1つぐらい、ご要望あれば。

委員：

観光に絡むかもしれないが、商工系もあってもよいのでは。どういう括りで聞くかは決まっていないが。

委員：

大河関係は社会教育になるのか。これから力を入れていくということなので、大河関係、光秀の遺産を活かすという取組。

委員：

大河関係が観光に入るのでは。

委員：

観光に入っていると言える。商工関係の事業だとどれになるのか。中心市街地活性化事業か。

委員：

中心市街地活性化は園部町だけなので。

委員：

商工会イベント補助はどうか。

委員：

幅広すぎるかも知れないが、集落を維持するところに関して働く観点とか。

委員：

一旦今の2部署にしておいて、またご要望があれば、メールでお尋ねして集約した後は事務局と私に任せていただいてよいか。

< 一同賛成 >

委員：

では、地域振興課と観光交流室には来ていただく。それ以外はもう少し検討するというので。そこについてはお任せいただくと。

色んなご意見をいただけて大変有り難かった。南丹市の会議については、いつもこういう形でやっていただいて大変有り難く思っている。新任委員におかれても、ずっとやっていたかのように参加いただいて、この調子でお願いできればと思う。

では、事務局へお戻りする。

4. その他

■次回日程調整

・8月11日(水)AMで決定

■事務局からの連絡事項

・インターバルにおける評価シート作成・提出の説明

座長：

私からも一言言っておくと、この40の事業について、各界から有識者の皆様に来ていただいて、情報とアイデアをいただいて地域の総力で評価を出した上で国に返すという制度になっている。要するに実感として知っていることとかを集めて評価してください、ということ。私達が国に雇われていたら歯に衣着せぬ評価ができるのだと思うが、南丹市に雇われているので、南丹市がちゃんとやったと思うかどうかを真摯に評価をして出すということ。それぞれ忖度せずに評価してもらったらよいという主旨である。

「有効であったか否か」ということに集約して評価しているのだが、もうちょっと分解したら、そもそも地域に必要なかどうか、という話もあると思う。その上で、必要なことだが、目的手段が適切に口

ジックモデルに沿って取り組まれたかが次に問われる。その2つを包括して、それぞれ上位の施策があって4つの大きな目標があって、KGI・KPIの達成に役立っていたか、そのまま当てはまらないような事業だったら、その目標の主旨とか、目標ごとに書かれている施策の文面とかに照らして役立ったかどうかということを書く。そもそも不必要なら勿論、有効でなくなるという論法。細かく言うと必要性・有効性・費用対効果など分けてもよいのだが、「有効」という言葉に集約させたということ。

加えてコメントのところには、理由とか評価の理由ということで何でそういう判断をしたのかということを一言書いていただけたら有り難いという主旨。

次回は8月11日にそれらの集約とヒアリングを両方。盛り沢山ということになるが、よろしくお願います。その議論の中で今日も色々いただいたアイデアなども、評価を離れていただきたい。引き続き南丹市の地域創生ということをよりよく推進していくようなことになればと思っている。

では、本日は本当に長時間ありがとうございました。